

ひょっこりほん！

春からのさまざまなイベントが慌ただしく過ぎ、定期テストもばっちり！といったところでしょうか。雨の日も増え、まさに晴耕雨読といった時期ですが体調に気を付けて、夏休みまでがんばりましょう。



令和8年6月19日
国府津中学校図書館

学校司書 比企しずか

課題図書 はいりました

第72回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書本が入荷しました。中学生の部の3冊に加え、高校生の部の本もあるので、興味のある人はあわせて読んでみてください。



「君の火がゆらめいている」

落合由佳 作 講談社

「チーム・テストならだいじょうぶ」

カービー・ラーソン&クイン・ワイアット 作
杉田七重 訳 鈴木出版

「リュウグウの砂に挑む：チームで小惑星のサンプルを分析」

伊藤元雄 著 くもん出版

😊貸出できます & 夏休みの間も借りたままでも OK。ぜひ感想文を書こう。

そのほか 新着本あれこれ

「スウィッシュ！」(藤ノ木優 著 徳間書店)

「ノアハム・ガーデンズの家」(ペネロピ・ライヴリー 著 ゴブリン書房)

「平和のうぶごえ：原爆の子として生きた80年」(早志小百合 著 毎日新聞出版)

「本なら売るほど」(児島青 著 KADOKAWA)

「コールド・ムーン」(芥川なお 著 すばる舎)

「謎の香りはパン屋から 2」(土屋うさぎ 著 宝島社)

「はらたく細胞 猫 4」(かいいれめく 著 講談社)

「光が死んだ夏 8」(モクモクれん 著 KADOKAWA)

「Do It Yourself!」1~3巻 (IMAGO ほか著 スクウェア・エニックス)



コミックにつき禁帯出です

勝手にアカデミー賞

映画「マイケル」の上映が始まりました。主人公役の俳優はマイケル・ジャクソンの実の甥とのこと、雰囲気はそっくりですね。足から血がでるほどにダンスの練習をしたそうですが、マイケル本人もきっとそれ以上の努力があったのでしょう😊

「一次元の挿し木」(松下龍之介 著 宝島社)



ヒマラヤ山中で200年前の人骨が発見された。DNA鑑定の結果大学院で遺伝子研究をしている七瀬悠の妹・紫陽（しはる）のものとは一致する。悠の妹は、4年前の豪雨で行方不明となっていた。

こちらは映画ではなく7月期のドラマ化作品。遺伝子、宗教、SFなどの要素が絶妙に混ざり合い、最後まで一気に読めます。この原作は2025年の「このミステリーがすごい！」大賞受賞作ですが、ミステリーと言うよりはむしろホラー色のほうが強めな気がします。ドラマも期待できそうですが、いっそゲーム化したら面白いかも！

「黒牢城」(米澤穂信 著 KADOKAWA)



織田信長に信頼され活躍していた武将の荒木村重は、ある日信長に逆らい有岡城（兵庫県伊丹市）に立てこもる。しかし城内では不可解な出来事が相次いで起こり、城の存続が危うい状態に。村重は牢屋に入れた黒田官兵衛に、これらの謎を解くよう求めるのだが…。

時代劇背景に難しい漢字、さらに聞きなれない武将も出てきて、読むのが少し大変かも知れませんが、歴史+謎解きに興味のある人はぜひ挑戦を。米澤穂信氏の作品は「氷菓」シリーズも有名&おすすめです。図書館にあるのでぜひ読んでみて。

「急に具合が悪くなる」(宮野真生子・磯野真穂 著 晶文社)



深刻なガンの転移と戦いながら一生懸命生きようとする哲学者・宮野真生子氏と、宮野氏と一緒にチームを組んでいた人類学者・磯野真穂氏との、命をめぐる20通の哲学的な往復書簡。

今までどんな状況でも力強い文章をつづっていた宮野氏が、最後の集中治療室から、すべてひらがなの短いラインを1通だけ磯野氏に送ったというエピソードにぐっときてしまいました。タイトルからコメディを想像してしまった自身に反省…。